

いわて牛のシンガポール輸出が始動、いわちくで出荷式を挙行



岩手畜産流通センターは26日、シンガポール向けいわて牛の出荷式を行った。第1便となる輸出牛肉は紫波郡と八幡平市で肥育された黒毛和種2頭分、重量は37・2kgと43・2kgでともに格付けはA4(BMS No.7)。JA全農ミートフーズを介し29日には成田からシンガポールに向けて空輸される。現地では、食品流通業者を経て、百貨店、量販店および外食店に販売される予定。シンガポールは、国内に農業基盤がないため、農畜産物は輸入に依存する体质となっており、1人当たりの国内総生産が日本を上回る。アジア圏の富裕層を抱えていることから、和牛肉の需要は大きく、有望なマーケットであると捉えている。同社は、東北・北海道で初の牛肉輸出認定施設で、今後は、対米輸出食肉処理場の認定申請を予定。

日本カイハツミートが和牛の即売会、日本デリカがGC牛購買



(株)日本カイハツミート(神奈川県相模原市、阿部昌史社長)は25日、佐賀牛等の和牛産地から57頭を集荷して第17回枝肉展示即売会を相模原の本社で開催した。即売会はグランドチャンピオン牛の佐賀牛を(株)日本デリカがkg5500円の高値で購買した。阿部社長(写真)は「産地も流通業界も、ブランド化や差別化戦略に取り組み努力しており、年末年始で需要が伸びるよう期待している。当社も、来年で創業30年の節目の年となる。加工部門の新工場も着工し来年春には完成するがその時には、皆様に報告したい。今後とも堅実な経営に取り組みたいので、「支援を」とお礼の言葉。

この後、くまもと黒毛和牛生産者の阿蘇品豊さんの紹介、熊本県畜連の業務部販売課の芹川康之課長補佐が「地元でも焼肉大会などを開催して消費者に需要増加の火を付ける努力をしており、ぜひ熊本の牛もよろしく」と支援要請のあいさつを交えて乾杯した。▽最優秀賞(株)東和食品・5300円▽優秀賞(株)一ノ瀬畜産・4800円、(株)スターゼンミートグループ国産ビーフグループ・4800円▽優良賞(株)山梨食肉流通センター・3500円。

丸大食品が第2四半期業績修正、売上高は下方も利益は上方修正

丸大食品は26日、22年度3月期第2四半期連結業績予想の修正を発表した。売上高は989億円(前回予想1035億円)、営業利益30億円(同17億円)、経常利益29億円(同17億5千万円)、四半期純利益20億円(同12億5千万円)。売上高は食肉相場の下落等で下方修正したが、利益面では、合理化と原料等の価格下落によるコスト削減が順調で上方修正した。